

単元: 第3学年 「地方自治と私たち」

◆本単元終了時の目指す生徒の姿: 地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解し、社会参画を通じた主権者意識を社会的な見方・考え方をを用いて思考・判断し、自らの主張(考え)を事実・根拠を明確にして表現する力を育む。

7月29日(木) 教材研究会

【協議の視点】  
 ・単元課題の解決に向けて、生徒が見方・考え方を働かせることができる単元構想となっているか  
 ・単元導入時に生徒が主体的に問いをもてる場面設定となっているか

野市中学校の提案

本時の課題である「香南市役所の建設場所が適切であったか」を考える活動を通して、有権者となる3年後の自分に必要な考え方や力を育成する

単元を貫く課題: 3年後の自分に必要な考え方や力は何だろう

|               |               |   |          |
|---------------|---------------|---|----------|
| 第1時           | 地方公共団体の仕事と仕組み | ↓ | 学びの変容や成長 |
| 第2時           | 地方自治への参加      | ↓ | 評価につなげる  |
| 第3時           | 地方公共団体の財政     | ↓ |          |
| 第4時           |               | ↓ |          |
| 第5時           |               | ↓ |          |
| 単元のまとめ (評価問題) |               |   |          |

「事実」単元の学習内容「根拠・背景・つながり」

【主張】「事実」と「根拠・背景・つながり」を基にした自分の考え

教科主任: 田内南央 教諭



協議ではJamboardを活用

研究協議より

- ・地理的分野の見方・考え方で解決できるパフォーマンス課題である
- ・立地よりも費用に視点を当てるなど現代社会の見方・考え方を働かせる工夫をする
- ・単元課題を具体的につかませる手立てが必要である
- ・単元導入時の資料の提示を工夫する
- ・目指す生徒像に向けて第2、3時を工夫する
- ・各時間で「香南市民として」という立場を意識させる

【講師講話】愛媛大学教育学部 井上昌善 准教授

○課題解決の学習のプロセス

「社会問題」の解決策について考えることができる人物とは、どのような思考ができる人物なのか、ということを考えていく必要がある。例えば、建設問題でどんな問題があり、その問題を解決するためにどのようなことが行われ、その取組は誰がやっていて、どのような思考をして対応していったのかということが学習内容の中心になる。

○公民的分野の見方・考え方

「市役所建設問題」を公民的分野で扱うことの意味は、見方・考え方と関連している。どのような対立が生じて納得した合意が図られたのか、そのプロセスにおいてどのような対応が講じられ、その対応は効率的・公正なものだったのかを考えさせていくことが公民的分野の学習である。

9月30日(木) 授業研究会

単元を貫く課題: 3年後の自分に必要な考え方や力は何だろう

第1時

香南市は私たちのためにどんなことをしてくれているのだろうか。

第2時

歩道拡張を実現するためにはどう行動することが効果的？

第3時

2022年度の香南市の財政案を選択しよう。

【教材研究会を受けての変更点】  
 ・課題に対する生徒の記述を具体的に予想して単元を見直し、単元を通しての思考の流れと問いや評価規準との整合性を図った  
 ・より当事者意識をもてるよう、第2時の問いを「歩道拡張を実現するためには」に変更した  
 ・単元導入時にあえて地理的な視点の資料から課題を捉えさせ、単元を通して現代社会の見方・考え方を成長させるようにした  
 ・現代社会の見方・考え方が働いている生徒の記述や発言を黒板に示す等、明示的に指導した

授業者: 植松晃平 教諭



本時

データを基に根拠付けて説明させる



議論した後、自分の意見を再構築させて、根拠をより明確にさせる



2回の議論の後、単元を通して振り返る



〈生徒の記述〉

私は適切ではないと考える。山間部は人口が少なく、高齢者が多い。そのため、発展している野市にあると、山間部の過疎化をさらに進めていると思う。山間部は市役所まで距離があり、交通機関も十分に発達していないので、少数意見を尊重する民主主義の考え方からも公正とは言えない。しかし、現在の場所の近くには商業施設が多く、自治体がサポートしやすい距離にもなっているので、効率よく町の発展につなげられるという点も考えなければならない。

研究協議より

- ・教師が見方・考え方を明示的に指導した成果が生徒のパフォーマンスに現れていた。
- ・「少数意見を大切に政治家に投票したい」という生徒の記述から単元のねらいに迫ることができていたのではないかと思います。
- ・「今後、市役所を移転する」といった間違った課題の捉え方をしている生徒が複数名いたことから見方・考え方が財源に偏ってしまった。
- ・主観で意見を述べている生徒が複数いたことから、客観的なデータを根拠として用いて説明できるように手立てが必要であった。

課題の追究・解決を通して資質・能力を育成する単元づくり ~指導と評価の一体化~

「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる教材分析力の向上 ~単元を貫く問いと各時間の問いのつながり~

参加者の主体的・対話的で深い学びにつながる講座の充実

〈リフレクションシートより〉

- ・参加する度に授業づくりに対する理解や実践に向けての準備ができるようになってきていると実感している。
- ・教室内(同世代)の主権者教育ではなく、社会に出て様々な世代がいるところで通用する主権者教育を意識していきたい。
- ・単元計画を見直し、フィードバックの充実を図りたい。
- ・ただワクワクする問いではなく、教科で身に付けさせたい力、見方・考え方を成長させることができる問いを研究したい。

振り返りの共有



学習指導案の工夫

単元を通して知識・技能を活用して課題解決に取り組みようデザイン

「単元を貫く」課題の設定

単元で付けたい力を具体的にし、目指す生徒の姿として記述

各時間に成長する見方・考え方